

東京バッハ合唱団 月報

[第 510 号] 2004 年 12 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 Tel : 03-3290-5731 Fax : 03-3290-5732
E-mail : bachchortokyo@aol.com http : //www2.tky.3Web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO
Monthly Newsletter No.510
December 2004

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

神の子の生死を結ぶコラール

《マタイ受難曲》から《クリスマス・オラトリオ》へ

大村 恵美子

バッハは、1727年初演とされる《マタイ受難曲》のなかで、もともとハンス・レオ・ハスラー(Hans Leo Hassler, 1564-1612)の恋愛歌(„Herzlich tut mich verlangen“1601)だった旋律に、のちにパウル・ゲルハルトの詞を付して受難の歌として親しまれるようになったコラール„0 Haupt voll Blut und Wunden“(1656)を5回^(*)もとり入れ、それ以後、人々のこの歌に対する印象を、イエスの十字架の死に決定的に結びつけてしまった。

そのもっとも典型的な場景が、イエスの処刑の前に、官邸で兵卒らがイエスをあざけり、愚弄するところで歌われる同コラールの第1、2節である(第54曲。以下、引用は大村訳詞)。

おお 主の み頭(かしら)
血に おおわれ
いばらの 冠
刺しつらぬく
栄えの 君の
いまや ここに
嘲(あざけ)らるるを
われは 仰ぐ

あまねく 世をば
畏れしめし
尊き み顔
いまや いかに
唾に けがれ
輝き 失す
かかる 恥をば
誰が 負わせし

そして《マタイ受難曲》における最後のコラールとしては、イエスの臨終に歌われる、同第9節である(第62曲)。

いまわの 時に
主よ かたえに
み姿 示し
守りたまえ
恐れ の 淵に

沈む われを
なが 痛みもて
救いたまえ

ところがその7年後(1734-35)、バッハは、イエスの生誕を主題とする《クリスマス・オラトリオ》を集大成して、その最初と最後の合唱の2回に、なんとこの《マタイ受難曲》のテーマソングともいべき、受難のコラール旋律をとり入れた。

最初に待降の心をあらわす第5曲(詞: „Wie soll ich dich empfangen“ Paul Gerhardt, 1653. 第1節)は、

いかに 迎えん
いかに まみえん
世の 望みなる
心の 主よ
おお イエス 来たり
ともし火 もて
行くべき 道を
示したまえ

で、神の子の地上に降るのを待ちのぞむ内容でありながら、本来のハスラーの恋愛歌(「われ 心より待ち望む」)に立ちもどったかのように、情熱と憧憬のいらだたしいほどの期待をもって、来たるべき日を見つめる。

キリスト教では、父なる神の、人間への並々ならぬ愛の意志によって、神の子イエスが地上に来たり、自らの死によって人間を同じ神の子として引き上げ、また友として自由を得させてくれたという。この情熱と期待は、とりも直さず、われわれ人間の存在の誕生を、神がそれほどに待ちのぞみ、待ち受けるという、愛のしるしにほかならないであろう。神の子イエスの誕生を迎え入れることは、同時に、われわれ人間の生を神が迎え入れることである。

また、《クリスマス・オラトリオ》最終曲(第64曲)は、同一旋律のフルオーケストラをともなった一大凱旋歌である(詞: Georg Werner „Ihr Christen auserkoren“ 1648. 第4節)。

敵(あだ)は 今しも
退けらる
抗(あらご)う 者を

主は 砕きぬ
死も 恐れも
すべては 消え
われら 主の もとに
幸を 得たり

同じ旋律が、明るい長調へとたくみに転じた編曲となって、トランペット、ティンパニとともに鳴り響く。

あだは今しも退けらる 死も恐れも、地上における有限性の歎きすべてが、イエスの死と復活によって棘を抜かれたものとなり、神の愛 天地創造による人間と神との共存は、回復され祝されたものとなる。すなわち生は肯定されたものとなる。

このようにしてバッハは、生死の情熱にみたされた、恋歌出自の1つのコラールから、みごとに2つの主要作品（《マタイ受難曲》と《クリスマス・オラトリオ》）を構成し、「挫折と死」から「期待と生」へと、7年をかけて、一つのメッセージに結びつけることに成功し、神の子の一代記をそのような順に完結させた。

私たちは、罪人として頭を垂れる生気のない生活から、神の子、神の友として、自由に目覚めさせられ、生かされた人生をふたたびとり直し、受難歌さえも凱旋歌に変えたバッハの逞しさにあやかって、新しい年を新しい心意気で迎えたいものである。

注*) うち1回は、同旋律にゲルハルトの別のコラール歌詞による：第44曲。また初演稿では、後の決定稿の第17曲は存在しなかった可能性がある。

[月報に連載中の「《マタイ受難曲》における、群の役割」(：2004年2月/第500号、：同4月/第502号、：同7月/第505号)は、しばらく間があきましたが、12月に《クリスマス・オラトリオ》を演奏したあと、2005年1月号からまた続きをとりあげて、いよいよ合唱での役割に入ってくことにします。その関連をたどる意味も兼ねて、この稿を書きました。]

バーバラ・アンメ夫人を送る

今年の春、グンドルフ・アンメ牧師の訃報をお伝えしたばかりでしたが、それを追うようにバーバラ夫人が旅立たれました(9月23日)。

ご夫妻が最後に来日なされたのは2000年9月でした。そのときは、グンドルフ牧師が夫人の健康状態を気遣いつつ、休息をとり入れながらの日程でしたが、お揃いでほんとうにお幸せそうな様子でした。

ベルリンのお宅でひとり病まれる夫人よりも、天国にかけつけて、グンドルフ牧師とほほ笑みかわされる夫人のお姿のほうが、ずっと想像しやすいのは確かです。

どうぞ神様のもとでお2人とも安らかに憩われますように。20年余にわたる、合唱団との暖かいお交わりを、心より感謝いたします。

第72回力行祭記念コンサートに参加して

松尾 茂春 (団員：バス)

10月23日(土)、財団法人日本力行会の第72回力行祭記念式典があり、その記念コンサートに招かれて、東京バッハ合唱団はカンタータ2曲、および《クリスマス・オラトリオ》からの抜粋を歌いました。

集合地点となっていた西武池袋線の江古田駅北口から商店街～住宅街をしばらく歩いて日本力行会の敷地に到着。落ち着いた感じのたたずまいの中にも、事業の一つである幼稚園の楽しい雰囲気も重なっています。入口を入れて左手の建物の地下が会場となる国際館ホールでした。

今日は、今回の招聘にあたってお世話くださったバスの藤田正記さんがステージ・マネージャー役。てきぱきとした指示がなされる中、昨年までのそうそうたるゲストを経て今年の演奏がある旨も知らされ、その期待とプレッシャーを背にリハーサル開始。

昼食は、いただいた食券を使って、国際広場に建ち並ぶ、各国お国柄の自慢料理を用意した模擬店から、めいめい自由に選んで食べるという趣向。韓国、南米、タイ(2軒)、ブラジル、日本...と、料理の多様な美味しさを満喫。加えて、それをサービスする留学生の方々の多彩さも楽しいものでした。タイの民族衣装を纏った素敵な女子留学生の方々と記念写真を取る団員も出現。

1時半になり、式典の開始。第1部は、理事長の中村靖氏によるご挨拶。ここで、1897年創立という歴史を持つ日本力行会の沿革を知ることができました。引き続き、記念礼拝、来賓のご紹介とご挨拶。

続く記念コンサートは、まず、第1部としてメゾ・ソプラノの鐘ヶ江由貴子さんとピアノの内山亜希さんにより、《クリスマス・オラトリオ》からアルトのアリア3曲(第4,19,31曲)が演奏されました。この長大なアリアを3曲連続して歌うのは並大抵のことではないと思いますが、長年のドイツでの研鑽の賜物でしょう。

拍手、花束のあと、いよいよ第2部としてバッハ合唱団の演奏。藤田さんによる紹介の後、中央から入場して3列に並び、ピアノの内山さんと共に大村先生のタクトを待ちます。まずは《カンタータ第30番》の冒頭-祝典的な楽想はこの場にふさわしいものです。前奏なしに動きの早い合唱で始まるこの曲は、歌いだしの集中力が特に要求されます。続いて、団内ではお馴染みとなったアルトのアリアを女声全員で斉唱。そして満ち足りたコラールをもって30番を締めくくります。引き続き、名曲中の名曲といえる《第78番》を演奏。冒頭のパッサカリア形式と融合した壮大なコラール・ファンタジーに引き続き、みんなの愛唱歌と言っても良いデュエットを女声全員で歌い、終曲は希望をたた

えた味わい深いコラール。1 曲ごとに暖かい拍手をいただき、大村先生への花束贈呈の後、アンコールとして《クリスマス・オラトリオ》第一部冒頭の華やかな合唱で締めくくりました。

お客様がお帰りになった後、関係者の方々と一緒に記念撮影。終始行き届いた準備とおもてなしの中に、バッハを歌い、皆様と時を共有できたことを嬉しく思いました。定演におけるプロのソリスト、オケと共に響き渡る空間で作り上げる演奏に比べてハンデの大きい一面はありますが、世田谷中央教会での演奏会、あるいは野尻湖コンサートと共通する和やかな雰囲気を継承しながら、また独自の足跡を残した有意義な時であったといえましょう。



国際広場の模擬店には、各国留学生たちの自慢料理がならぶ。(写真：筆者)

メッセージ

笠原 芳光(団友)

いつも『月報』をお送りくださり、ありがとうございます。...

鈴木大拙の『神秘主義』のご紹介と要約、おもしろく拝見いたしました。禅の逆説はイエスのパラドックスに通じるものと存じます。

演奏曲目解説 (第97回定演、2005年5月15日予定)

カンタータ第116番《平和の君 イエス》
„Du Friedefürst, Herr Jesu Christ“ BWV 116

解説：大村恵美子

初演：1724年11月26日(三位一体節後第25日曜日)、ライプツィヒ。

世の終りに起こる誘惑について語る福音書章句(マタイ24:15-26)に基づいた歌詞(作者不詳)、冒頭合

唱と最終コラールには、J.エーベルトの「平和の君イエス」Jakob Ebert „Du Friedefürst, Herr Jesu Christ“ (1601)第1節と第7節を用いた、コラール・カンタータである。中間の第2-5曲は、その基本コラールの第2-6節の内容がパラフレーズされている。

ホルン、オーボエ・ダモーレ2と弦合奏、通奏低音という、管楽器で多彩にいろどられた、きめの細かい作品。世の終りの艱難のときに、偽預言者たちが現われて誘惑し、混乱を増し加える。これを救うのは平和の君イエスのみ、という信頼を歌うものであり、5)アルト・レチタティーヴォなどで示される戦争が、1744年秋の、バッハの身近におきた戦闘(プロイセン軍のザクセン侵入)を思い起こさせることから、晩年のバッハの傑作と見られていたが、今日では、1724年初演と訂正されている。

しかし、世の終りの光景を地上の戦乱になぞらえてみると、実際に、瞬時にして地球の消滅する危機をはらんでいる現代では、直接の現実味をおびて、私たちに迫るものがあるといえよう。

1) 合唱

独自の華やかな器楽リトルネロの前・間・後奏をもった4声体コラールが、1節ごとに下3声でポリフォニックな装飾を施されつつ歌われ、最終フレーズ「われらみ父を呼ぶ」に至って、落ち着いた同時進行の和声でしめくくられる。

2) アリア(アルト)

オーボエ・ダモーレとアルト独唱による、不協和音多用の、苦難の表出。怒れる主の審きのときに、助けを呼びもとめる。

3) レチタティーヴォ(テノール)

通奏低音のみのセッコ・レチタティーヴォだが、冒頭と第4小節に2回、基本コラールの冒頭フレーズが現われる。平和の君イエスが、われらに送る救いのことばを期待する。

4) 三重唱(ソプラノ・テノール・バス)

独唱3声部と通奏低音のみの大規模な三重唱。われらが罪人であることをはっきりと言い表し、主の死の痛みによって、われらの苦境に憐れみと救いが注がれることが、しっかりと足取りで確信をもって歌いかわされる。

5) レチタティーヴォ(アルト)

2)アリアで、神の怒り審きとわれらの激しい痛み苦しみを歌い、4)三重唱には加わらなかったアルトが、このレチタティーヴォによって、先述したように、戦争の現実的な惨状を描き、そこから救いだして確かな平和をさずける神への期待を述べる。

6) コラール

基本コラールの最終節が、堂々と歌われる。全曲をとおして、破滅的な危難を前にしても、神にゆるがぬ信頼をよせる、力強い信仰が貫かれている。

BWV51 ~ BWV100 に集中した 2004 年

募集 第 2 回「私の好きなカンタータ」

BWV51 ~ BWV100

2004 年は、5 月と 12 月の 2 つの定期演奏会において、BWV51 から BWV100 までの 50 作品中からの選曲でプログラムを構成し、この範囲に照明を当ててみました(下表参照)

この 50 作品の中には、他にも多くの名曲があり、『バッハ・カンタータ 50 曲選』でも 13 曲の楽譜が出版されました(表中の BK-18 から BK-30)。

下表の 50 曲の中から、みなさまの愛好するベスト 10 を挙げてください。

<応募方法> ファックス・メール・はがき・メモ他なんでもあり。無記名でも結構です。12 月 31 日〆切。
(結果は月報に発表、抽選で何も当たりません)

『東京バッハ合唱団 演奏曲目一覧(付・大村訳稿の分類)1962-2004』より抜粋

BWV	曲名	演奏歴	訳詞
51	全地よ 歓呼せよ み神に	Jauchzet Gott in allen Landen!	89 定(01)
*52	悪しきこの世よ われなれを頼まじ	Falsche Welt, dir traue ich nicht	
	BWV53 <偽作>		
54	あらがえ いざ 罪に	Widerstehe doch der Sünde	56 定(1984), 予特(05.8)
*55	憐れむべきわれ 罪人	Ich armer Mensch, ich Sündenknecht	
56	十字架を 勇みて負わん	Ich will den Kreuzstab gerne tragen	37 定(76), 87 定(2000)
*57	幸なるかな 試みを耐えしのぶ者	Selig ist der Mann	
*58	しげき悩み われを襲いて()	Ach Gott, wie manches Herzeleid	
59	われをば愛する者 われに従え()	Wer mich liebet, der wird mein Wort halten	58 定(1985)
*60	いかずちの言葉 おお なんじ永遠(とこしえ)よ() O Ewigkeit, du Donnerwort		
61	いざ来たりませ 世の救い主()	Nun komm, der Heiden Heiland	21 定(70), 52 定(82), 92 定(02)
*62	いざ来たりませ 世の救い主()	Nun komm, der Heiden Heiland	
63	彫り刻め この日	Christen, ätzt diesen Tag	48 定(80), 74 定(93)
64	見よ かくも大いなる愛	Sehet, welch eine Liebe hat uns der Vater erzeiget	40 定(1977)
65	もろびと シバより来たりて	Sie werden aus Saba alle kommen	32 定(74), 76 定(94)
66	心はずめ 痛みは去れ	Erfreut euch, ihr Herzen	55 定(1984)
67	留(と)めよ 心にイエスを	Halt im Gedächtnis Jesum Christ	67 定(1990)
68	み神はこの世を かく愛したまえり	Also hat Gott die Welt geliebt	15 定(68), 25 定(72), 69 定(91)
*69	ほめよ主を わが魂()	Lobe den Herrn, meine Seele	
70	起きて 祈れ	Wachet! betet! betet! wachet!	58 定(1985)
71	主は わが君	Gott ist mein König	9 定(66), 49 定(81), 62 定(87)
72	みなすべて み心のままに	Alles nur nach Gottes Willen	96 定(2004)
*73	生くるも 死ぬるも み心のまま	Herr, wie du willst, so schicks mit mir	
*74	われをば愛する者 われに従え()	Wer mich liebet, der wird mein Wort halten	
75	貧しき者は 食し	Die Elenden sollen essen	65 定(1989)
76	主の栄光を 天は語り	Die Himmel erzählen die Ehre Gottes	34 定(75), 65 定(89)
77	主を愛すべし 心のかぎり	Du sollt Gott, deinen Herren, lieben	95 定(2004)
78	イエス わが心を	Jesu, der du meine Seele	33, 67, 73 定/ 独(93), 95 定(2004)
79	神は わが光 わが盾	Gott der Herr ist Sonn und Schild	(1962), 26 定(1972)
80	堅き砦ぞ わが主は	Ein feste Burg ist unser Gott	5 定(64), 独(83)
*81	主イエス眠り いかにするべき	Jesus schläft, was soll ich hoffen?	
82	われ 足れり	Ich habe genug	85 定(1999)
83	うれしき この時	Erfreute Zeit im neuen Bunde	77 定(1995)
84	われ足れり わが幸に	Ich bin vergnügt mit meinem Glück	1 定(63), 12 定, 36 定, 85 定(99)
*85	われは 善き牧人(まきびと)	Ich bin ein guter Hirt	予特(2005.8)
86	げに なれらに告げん	Wahrlich, wahrlich, ich sage euch	33 定(1975)
*87	今までは なれら求めざりき	Bisher habt ihr nichts gebeten in meinem Namen	
*88	見よ われ多くの漁師を遣わし	Siehe, ich will viel Fischer aussenden	
*89	われなれを如何に為さん エフライム	Was soll ich aus dir machen, Ephraim?	
*90	恐ろしき終り なれら襲う	Es reißet euch ein schrecklich Ende	
91	ほめ歌わん 主イエス	Gelobet seist du, Jesu Christ	78 定(1995)
*92	わが心 思い 神にゆだねたり	Ich hab in Gottes Herz und Sinn	
93	ただ 主に よりたのみ	Wer nur den lieben Gott läßt walten	77 定(1995), 95 定(2004)
*94	いかで 世を問わん	Was frag ich nach der Welt	
*95	キリスト わがいのち	Christus, der ist mein Leben	
*96	キリスト 神のひとり子	Herr Christ, der einge Gottessohn	
*97	わがすべてのわざ 主に導かる	In allen meinen Taten	
*98	神の御業こそ ことごと善けれ()	Was Gott tut, das ist wohlgetan	
99	神の御業こそ ことごと善けれ()	Was Gott tut, das ist wohlgetan	79 定(1996), 95 定(2004)
100	神の御業こそ ことごと善けれ()	Was Gott tut, das ist wohlgetan	20 定(1970)

[BWV 欄]: *印は未演. [曲名欄]: 邦語曲名は大村恵美子訳. [訳詞欄]: BK= 『バッハ・カンタータ 50 曲選』として発行. =既演訳稿, =未演訳稿あり.
[演奏歴欄]: 「89 定(01)」は「第 89 回定演(2001 年)」を, 「独(93)」は「第 3 回ドイツ演奏旅行(1993 年)」を表す.